會學濟經學大國帝都京

叢論藻經

號 五 第

卷四十萬

行發日一月五年一十正大

舊岡山藩の井田法・・・・	僧侶と勞働問題 ・・・・	雜錄	地學観社會學説に就きて・・・	功利主義と生産政策・・・・	證	間接税の整理を論ず ・・・	詩論	我が國民所得の地方別研究・	社會哲學完於主意的二元論的思想	租税立法5%階級打算的態度 .	マルクスの比例的關係の鐵則	論
・ 經濟學士 黑 正 巖	· 法學博士 财部 帮治		· 法學博士 財部 箭治	· 經濟學士 堀 經 夫		· 法警师士 小川郷太郎		· 法學士 汐見 三郎	· 法學士 恒 藤 恭	· 法警告 神戸 正雄	· 法學博士 河 上 肇	,

我が國民所得の地方別研究 (三・完)

沙 見 三 郎

界三 所得分配の地方別研究

民所得の構成要素に差別ある事は、軈て我が國民經濟に地方的色彩の存する事を推察せしむるの である。 我が國民所得の構成分子が各地方に於て種々其趣を異にしてゐる事は、 國民經濟が地方により其特色を異にする以上、 或は國民所得の分配狀態にも地方的色彩 前述の通りである。

最近十餘年間の我が國民所得の分配狀態を研究する爲めには、 國民所得の分配狀態を硏究するに當つては、其時其所に最も適應する方法を擇ばねばならね。 國民所得の分配狀態 第三種所得税の課税物件たる第三

材料とする事が出來る。明治四十二年乃至大正八年の過去十一年間に稅法の改正再三行はれ、從 種所得の分配統計を利用するのが適當なる方法である、從つて主稅局統計年報書の數字を其根本

つて國民所得の分配狀態を示すべき第三種所得稅の累進階段にも多少變化があつた。我國を東京

が窺ひ得るかも知れない。

以下、我が國民所得の分配狀態を地方別に研究する。

5) 主税局三十六——四十六回統計年報書、所得稅表其三其四

大小に應じ納税戸敷を配列すると、第四表を得る事が出來る。

第

四表

大	:								京		東				_	
=	四五	四四四	四三	四二	入	七	六	五	四	三	=	四 五	四四四	四三	四 } 二}	年
中]、人人	これ、よい	70代第1	[][[]]	11岁7呎1			至三、六五六	 	至0、1元二	ロス、へいな	国力、九公司	二元、三元	[]光/虽兄	1元(19)	11人(公司) 声	四百円以 四百円以
五】、三一七 四二、九四四 二七、三六一 二四、三九:	益"[鹽	杏、光 泉	元、四七	<0′1/图	人は、別「ロースへ、「ヨニー六年、人」へ	カイ、2012 2011、122 内13、2大	01次、光广河01、1点 次0次、光图	四年、岳景〇 三年、大岳三 三次、一九七	第0、1九二 四二、七六二 二七、人四五 二五、九〇六	以大、人はと のよっと回り ナス・スカロ ナス・スカロ	2年2、国二二代国、第二月11、0回	大大、海北區	주는 '] 보다	公一、四一 草	天下 (0至0) 1	比百円以 七百円以 五百円及至千円
	三、盆	11、001	14個,01	內室人		图9,0强图	汞尖0	吴、冠	量、治人	关、空間	一一一一一一	過一個	三、题	三、夏天	三1、四月 三1、四月	二手門 乃至
_ 	至7,700	五、四四五	0代17第	# / <u> </u>	[#0,4]	=`.;<	へ言え	∄.018	ペイス学	六九四[<u> </u>	< 汽	六 0 型	六、 呈表	で へ 記ァ	恋三千円 二千円 万
三、公元	₩′<00	M'₹10	平、雪量	八六四	一、一	toll, t	用、 以至0		M	100 Y	<u> </u>	图/最大	平、大公	三八四	三、光光	第五千円 三千円 万
17		1,401		1/#0#	三、元公.	17、图光版		1、元0	1 1 1 1	1/图	1.00	1,0票	一、七七九	lt, l	一声 空	5七千円以 七千円 (五千円/) 七千円/ (五千円/) 七千円/
는 것	=	Ξ	=	<u>≅</u>	党	一、类公园	1,051	谷	ゼルゼ	兌	计算点	並	芜	70)FF	以 七平円以 平円
元	三四五	壹九	10E	풋		춫	皇	型	鷪	<u> </u>	章	<u> </u>	를	罰	夏	内一萬 萬円 五 <i>乃</i>
夳	六四	፷	≘	豈	三 四	큺	14.	119	Ξ	14.	美		芫	=	三 元p	円主干一 二円為 高 <i>乃</i> 五
=	Ξ	100	些	≎	黑	臺	Ξ	=	10	=	Ξ	九九	-	七九	合产	成少二 打主演 三円
咨	苔	四四	吾	秃	壼	≡	吾	謃	夳	垩	夳	<u>~</u>	垂	吾	四尺月	高乃三 円至萬 五円
Ξ	Ħ	<u>~</u>	玄	ᆽ	01	岩	臣	츳	=	Ę,	표	=	긆		je 元 元 董	上海門 北海門 北海門 大瀬門 大瀬門 大瀬門 大瀬門 大瀬門 大瀬門 大瀬門 大瀬門 大瀬門 大瀬
#6				٠.	兲	至	兲	땓	10	^	=) a f	LĂ/ ヹ 円→、
=	=	=	= .	=	<u> </u>	圖 10	里	<u>_</u>	^	^	£	四	三	3 .	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(子) 二十八百八十八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百
英、授	EI<.050	114、70三	三05(关:	発売、200円	芸、公会	心心无	一艺、盐	[空、杏色	一一一	三 天、交三	[Ett.][理]	三四、一型	三、空	芸芸	HO2.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7.7	各部

我が國民所得の地方別研究(二・完)

第十四卷 (第五號

七五) 八二九

	論業
•	我が無
•	國民所得
¥	の地方
*	我が國民所得の地方別研究(三・完)
7	三完
.	
7	
	第十四卷
76	卷
T T T	(第五號
-	
4	七六)
er Pr	人三〇
a i	J

阪 札 兲 蓋 三大、大気や OBU, BI 10、引品 至0、公至 三十二二 1070% ★1、人間○ 四四、四九六 束0、00.6 二七、1至三 11、1至110、25人 14、元10 1四、18公四 へ、四0: 22年、四、日の1、1 四十、600 1916日 图、其 元、元 一点、の際 へ、旦. と、きへ 七、三〇五 二、九五九 ゼ、独先 四、一九七・ Blit, an cht, th ith, ith 次次・三三人 三九・二十四 三大・四二七 十〇・一七七 元/元四 | 二/五四(一六、六五五一人、二六人 二元元 三、三 H'|{0 10、激炎 XCO, 01 九二九四八 四、衣裳 三年, 117 八萬 # 7 I I I 110E J 再、法 三、三六二 二、元六0 1707 た。同 11年11日 三、宝九五 抗阻力 七六六 六く六 六、四六章 今9. 六年10 插下面 七、二九 (/)圖 个()完 1,010 1/1/2 17年 一、爱笑 1′0图0 九、六至 1110,4 四次公 鬥大 三、公完 1,110 一二元 ₫||<u>|</u>| 加,儿 10 6 咒九 90 0.3 答 [25] 六天 斯爾克 三年 一、臺 1/11 云 五 云 춨 흥 禹 灅 ¥0. 蓋 一つ名 一覧 一、元七 (1) <u>0</u> 4 줐 三七、全義 一会、杂会 法]、国图 兲′公宝 1000年1 无、老 **完**、宝石 臺、臺灣 圣 云、交 三、三 置、量 奕' 殸 欧江山 お、一番

		ļ	島		廣								Į.	室	<u>i</u> 5									
	力	Ti.	四	Ξ.	=	四五	四四四	四三	四二	八	t	六	五	四	Ξ	=	四 五	四四四	四三	삗	八	七	六	五
淮 我	J. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	二二大	三八菱	1117第副	三二元式	雪气	图化1,1月	tt1,0#	四天、八三三			四八、五山七	四九、三七 六	聚气图:	算、 元四三	四天、五五二	11/0/1	1尺、1元元	15%/美国	10至10米				14/41/4
我が國民所得の地方別研究(二•完)	大、藍藍 10110人	1岁、八十天 元、至五二		元、至二、55	二三、二九九 二八、三四五 二一、三九二	國政人人	1六/ゼ ゼ	三三三	二萬一系四七	心、光六 六0、三宝	为古世,国山 古C四,因为	四一、一人至二三、人姓尤	柔、	欧门图 欧门图 山门园	四天、光四三 三九 三二六 三二、四九七	图次、展集中 《唐、人名斯 二〇、名二章	三/八二	門、一	門、記画	門へ二	大くに 宝く間	18、18、18、18、18、18、18、18、18、18、18、18、18、1	1五、七十二 元、三六八	↑▽、宍穴、 ゼ、九九・
地方別研究	へ <u>小売</u>	ニ ヤ/元六	インペンド	X 10'10k	5 元/ 140	北河只	八八壹	ハ、元五五	へ、買え	10分子	(A) (A) (A)	元宗	7. 一天、次八点	[五]	1112,41	三六、六六	一五、玉光六	洞、岩光	[型][10]	[医'三党	10°0:11	(河)	へへ言	一大八九二
死(11•完	1/10%	一、人会	170回	1/11	计计计	1,1	= 오르		三三	たく異	たで	三九.	三、艾士	三八量	图'0개%	三人公	三、七九九	で、意	5 年 1 因	三量	气之	一、盐	뜻	414,1
_	、二七九	三量	二类	一、	(課)	1.200	1,41] /]]類图	1/順0	₹ ′ =[₽	图70公三	六、公三	1,404	二二元	Ĭ <u>0</u> 0],	1/114	三,035	1,20%	1公]	一、宝一	で言葉	一之	 - -	1′:1;
	赱	둧	壹	涭	壹		_	,		171111	1/10	岩0	交	Sign Office Offi	擅	空.					119	盖	찟	四0元
第十	壳	美	<u>=</u> [0=	袁	交	量	鬥	五三五	型		公室	五岩	四二	풏	图记	급	九二	△	仌	公园	次九九	25	的	듳
第十四卷	<u>=</u>	홋	픗	厚	亶	<u></u>	듯	<u>=</u>	Ξ	公公	於		0	110	를	烹	交	一岩	水	売	[2년 [2년 [2년]	긒	101	夳
(第五號	2	<u>फ्रत्य</u>	四 35	<u>347,</u>	<u> </u>	哭	뙺		四	至	즛	찻	当	艺	仌	邙	查	四六	<u>=</u>	Ö	즢	픗	٠	브
	元	끝	三	奚	즟	壳	壳	六	፰.	空	퐃	깓	드	鬥	猆	罩	2 0	Ξ	亳	풋	完	캎	垩	亳
14년)	15	力し	<u>=</u>	四	H	=:	=	0	至	웃	T	兲	žĒ.	<u>'</u>	亖	=	蒏	≓	≐	茎	슻	茺	*	^
入 三	-	0	四	æ,	畑	<u>=-</u> ,	_	ᅏ	bei a	元	Ħ	<u>pa</u>	^	池	人	35 .	10	ナム	10	10	=	25)	=	0
=		=	<u></u>	· <u>—</u> .	0						ス	四	絃	Z	五	~					惡		0	≕.
	¥	<u></u>	_	_	_		_		= ,	229	星	.元	<u></u> -	.सन्दे	[25]	=	<u></u>	_	_	HE.	_	_	-	0
	二个、起	兲 (三	空、0公	容、公里	 	卖、 冤	20、九四	乳壳		一品、治	○ 言、一 造	一門、奏、	が成り回	三、	三, 101	[5/8.ATI]	心心矣	岩、一类	三宝、宝宝	三些、类	全、 罢	Oto, 34	蚕、	咒'艺

11 (大阪) 11 (大坂) 11 (大阪) 11 (大坂) 11 (大阪) 11	14人 九0 川 三 五 五	火 心 二 三 五	大	大 杏 二	艾杏	芡	_	莹	空	一、 三 三	し、ななく	至, ; ; ; ;	へ置	三年、大ヤへ	四、发	天、容.		<u> 7.</u>	
大	四次中 1五年 10年 六人 1七 10 1三 六	_	_	_	_	_	_	容	75	六ヤ六	一 三 英	三二十二	五、一九九	0]4,01	云、全乳	門(語)		七	
大	二七四 100 六九 三七 九 六 七									를	1	二、元	三五元	圆、完	15、150	芸(合)	受 、为三	六	
大	102 大江 四七 1萬 三 二 二		104 杰 四 三 三	102 六三四2 一至三	10年 11年 11年	10年 空 型	如益	101		<u> </u>	奈	一元六	二、250	三、盐人	三,0三	過代	三'二'元	五	
大	10六 (2) 20 10 六] .C	10次 (20 图 12	10大	10人 20 图 人		10六 六四 四年	10% 20%	큣		阿克	XON	一 元 四	三、 0公	兵(1)周		芸之	20、八窟	NG.	本
Table 1 1 1 1 1 1 1 1 1		「元 ¥ 新 新 山				二元 福 斯	二 元 記	<u>二</u>		다다	<u>~</u>	11:071	で美	三、公监	157,505	お、公会	二八、五七三	<u>۔</u> =	
Table 1 1 1 1 1 1 1 1 1								혍		計	五八四	一、会	#7 01 ∃	三、会) `#	三三,	元(美)	=	熊
一	1991							101		至		一, 中元日	十九元	11/1011	へ、セスセ	- -	究"〈皇	四五	
The control of th							一 空	至		Ź		一、癸	三、江川東	二二量	· 子四	쿞	公立、四六人	四四	
The control of th	12大 東九 1九 1五 四 0	无 元 三	无 元 三	无 元 三				吴		芸		一、莊四	一、公司	10/公六	1、川里村	=	穴冠でに関わ	四三	
***	1次次 東京 [九]七 四 □							交		芝		選	二、五五五	10%以	一、公里	킄	学工艺	四二	
*** **	1六六 七四 四九 一九 五 二 二 〇	岩 咒	岩 咒	岩 咒	岩 咒	1六六 七四 咒	1六 超			1110	五五三	一 、 墨圖	一、	た公舎	[]07茶题	11/45		八	
The content of th		兲	兲	兲	兲	190 - 1	一言	=======================================		=	<u>~</u>	一、章	次三	六、二、三、五		二/重		七	
***	10 14 11 11 0	10 1¥	10 1¥	10 1¥	10 1¥			站		≣	즛	六七五		e l'eor	光四 %	七、語	へ、東京	六	
N	が il ix な il 0 0 i	が il は は il 0 0	が il ik な il 0	空 二 中 中	다 나 나 됐	(보 내 함	<u>숲</u> =	空		Ξ	<u>≓</u> 0	轰		鬥	图、公20	₽ , <01	へ第六	五	
1	144 Mil 123 111 1 0 0	1 1 1 1 1 0 0	地 三 元 二 0	岩 三元 二	地 別 民 に	如 三 元	14 14	甘		三	흦	公园		Odt, 3	等二元	へ 芸温	くぎ	四	NA.
The control of th	光二 足	九二 三宝 二二 1五 1 0 0	光	之 至 三 三 二	2.	九二 - 도달 	九二 三	캗		120	0¢]t	비수나	一一	# , 101	野河代/第	へ、名田	へ 売	.~ =	
The Th	個元 11 1 0 0	四元 11 1 0 0	合 元 写 11 I 0	合 元 三 二	6 元 三 二	A 元 三	益完	益		三元	賣	퓼] /]]	四八六六	1、10分月	ر اع <u>ه</u>	八七三	=	丸
一	超 10 人 1 0	0 1 > 01 Bl BA	超 個 00 人 一	超 個 回 人 一	10 图 图	0[1]] [1]	剛	岩		픛		容	0,41,8	₹ [!]	一、全型	=	二 二 <u>益</u>	四 五	`
論 数 我が國民所得の地方別研究(二・完) 第十	HK 101 1/ H 0 0	HK 111 1/ H 0 0	果 15° 人 单 0	要 一大 五 0	聚 池 八 垂	要 言 六	要	丢		岂		元 元	17071	₩′C<1	X24,	=	10、公园	四四四	
一	製 I		英 云 大 大 0	要 云 大 大 0	美 豆 人 六	美 云 人	英	五六		Ξ		70 %	仌	四、0元八	(四四)	==	元、公三	四 三	
・		大六 二四 一年 九 0 0	交	公 温 玉 九 0	公 這 宝 九	大大 二四 一耳	交温	类		穀		公共	F10,1	四/三二	` ₹⊠=	=	12'E18	四三	
第一巻 での187番 (三・左) ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア	기 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	₩	₩	₩	₩	₩				兲		一、宝		て、会	海心	壹、三分		八	
一 義 我が國民所得の地方別研究(二・完) 第十				三 光	三、カニュー・ランド・ラブ・ラブ・ラブ・ラブ・ラブ・ラブ・ラブ・ラブ・ラブ・ラブ・ラブ・ラブ・ラブ・	三 _万 空 _万 天 _万	三声	三声	_	式 _ア		1700E		国[古/正] 4	阿河	訓0 、 0词	Ħ	- <u>七</u>	
	卷 (第五號 七八) 八三二	(第五號	(第五號	(第五號	(第五號	(第五號	(第五	卷	껔	第十			(二・岩	万別研究	所得の地	が國民	叢		

現象あるは、 年の數字に比較すると、各地方共に何れも増加してゐる。 るのでなからうか 大年二年、大正七年の二回に於て課稅最低限の引上ありし為め、納移戸敷の合計は增減常なら 極めて不規則の發達を示してゐる。 國民所得の分配に與る總戸敷が實際上可なり顯著なる發達を遂げし事を實證してゐ 然れごも、 大正八年の納税戸敷を十一年前の明治四十二 課税最低限引上の事ありしに拘らず此

達 觀 的 觀 察

る事が出來る。 を明にするに止まらず、 態の變化が各地方何れも同一方向を辿つてゐるのであらうか。此問題を解決する爲めには、 に占むる割合を算出せねばならぬのである。 額を羅列したる第四表のみでは満足する事が出來ない、更に各地方の所得戶數が全國の所得戶數 我が國民所得の分配狀態が逐年變化の跡を示してゐる事は、 果して我國の各地方が現在凡て同一の分配狀態に在るのであらうか、又其分配狀 更に進んで各地方の各所得階段の戸敷が全國の所得戸敷に占むる割合を 而して單に第三種所得を受くる總戶數の地方的分布 第三種所得稅統計より之を明にす 絕

五表である。 總戸敷及び各所得階級の戸敷につき、 饕 税法の改正 我が國民所得の地方別研究(二・完) あり し禽めに所得階段の間隔に 各地方が全國に對し占むる所の割合を算定 第十四卷 致を缺いてゐる所が (第五號 七九) あつたが、 した のが、 此部分 第

iA

調査する必要があ

6) 拙稿 我國に於ける國民所得の發達(經濟論體第十四卷518-519頁)

に關しては更に新なる計算を加へ、以て材料の統一をはかつたのである。

第 五 表

大正	同	Ē	同	明治		回	īī	同	뛔	同	回	大正	同	同	司	明治		
	罕宏手	四十四年	四上三年	治四士		八	t	六	Ŧ	四	Ξ	=	四土	四計	型盖	治四十二		
车	车	车	车	<u>年</u>		筀	牟	年	华	年	年	华	车	上	车	争		
臺			运	≒ 東 營%京		泄尘	1[10		壹	薑	$\stackrel{=}{\sim}$	<u>=</u>) <u> </u>			를 2	東 6京)
臺	美	흦	葁	≘‰ 火 ≘‰ 灰	千	101	=======================================	===		ij	1		== ==:	킃	三六	₹,	大 6 阪	所
≅	三	. ==. Z=1	臺	札 登%幌	圆乃	2	쯸	251 251	2 <u>-1</u>	兲	킃	弐	<u>=</u>	四三三	29	<u>P</u>	札.	得
世六	岂	받	(설 - 는급	仙 三%臺	至一	पेरी	<u></u>	1	汽丸	₹ <u>2</u>	04	tr.	· 中 中	사망 P.H) E		仙臺	i i
ᆽ	五	#I.	轰	名 云%屋	一千 図	증	支	合	云	全	至	完	全	즢	<u>.</u> 金.	<u>一</u> 公》	名古屋	 数
칼	ᅶ	夬	九 五	震 空%島	所得	6	<u></u>	ô	二	4	ᅔ	九宝	九四	九 四	九 四	<u> </u>	唐 加島	合
吳	[22] #E	NE NE	뜊	丸 哭‰龜	戶敷	兲	兲	盖	兲	© 0	雪	<u> </u>	<u>N</u> 0	壳	壳	5 %	丸(細	
≣	三	₫	눤	三%水		豐	<u></u> 큪	픚	美	皇	芸	<u>=</u>	=	三	≣	<u>=</u> 9	熊公	
1,000	1,000	1,000	1,000	一、全 00%属		.17000	000.1	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	000,1		全 66國	
囊	壳(큧	Ξ	轰 束 衰‰京	j	=======================================	<u></u>	=	<u>=</u>	1110	<u> </u>	Ξ	≣			三,	東紀京	}
薨	≘	1	흪	三、大 三‰贩	=	120	1/00	Ħ.	<u></u>	ラ	莹	=	<u>-</u>	二元元	1	를 불9	大 6阪	五
芫	를.	莊	<u> </u>	札 至‰幌	干圓	/호 / *	ήB	년 121	<u> </u>	픗	=	픗	芫丸	A O	兲	毒?	札	百圓
. 1.	발	다 다	共	仙 岩%蹇	乃 至	七六	担	七四	汽	17	兖	습	中中	tt	itit	世の	仙 6臺)	乃至
1	元		79 78	名古屋 電%屋	三チ	至	` ~	120	一六	元	숲	뒲	加	一	芝	三 <u>全</u> 9	名古屋	手圓
숲	仌	粂	九	廣 全%島	順所	슆	盁	붓	$\stackrel{\wedge}{=}$	仌	九 四	앗니 IZSI	蚻	类	九六	走9	廣島	所得
四七	四四		恩	丸 ಟ‰龜	得戶	霊	三四四	兲	20	쯸	(전 - 도쿄.	<u> </u>	쯸	三	<u> </u>	豐9	丸	戶數
=	<u></u>]	<u></u>	二 熊 三%本	數 .	吳	元	量	兲	元	=	픗	売	量	<u>=</u>	·量》	能	~
1,000	7,000	1,000	1,000	一、全 00%國		1,000	1,000	1,000	000	1,000	1,000	[' 000	1,000	1,000	1,000	7000	全 6國	,

第一四卷 (第五號 八〇)

	明		同	间	同	同	飼	同	大正	闸	间	同	明		闻	同	同	同	同	同
	治四		八	七	六	五	ДŒ	=	正	厚	四	坪	明治四十三年		八	七	六	五	匹	Ξ
⇒ 6	<u>辛</u>		<u></u>	牟	牟	<u> </u>	车	年	车	型宝车	四年四年	罕至	<u> </u>		集	车	年	年	年	车
論	三 東 三%京)	144	三治	完	1740	芸	1110	孟	141	1(4)	를	_{美%京}	Ì	三 图 图	藍	莹	莹	罩	=
我	夫 美%阪		1	 E.	莹	瑴		<u> </u>	蘆	臺	<u>=</u>	皇	_美 %阪	三	=	美	11/11/1		橐	景
我が國民所得の地方別研究(二・完)	札 景%幌	一萬圓	<u></u>	完	(프 고조	<u>I</u>	==	売	=	<u>≕</u>	噩	垩	札 云%帳	千圓	畫	킃	콮	莹	垩	芫
万得の い	三 <u>仙</u> 三‰臺	万至	站	完	拦	-ES	넌	11	숭	ţţ	乊	芜	仙 合%臺	万 至	12	ᄪ	17	心	穴	壼
地方別が	名 三%量	萬五千圓所	一	-)	州	[29]	豐	텔	四	量		臺	名 20% 屋	五千	1#1	一益	六	夳	二	云
研究(二	廣 全%島	- 圓所得	ļġ	19	章,	穴	72.	众	7 0	金	70	仌	廣 急‰公	順所	÷ in	芜	-1:5 2:51	节	盁	<u> </u>
· 完	丸 哭%龜	戸數	으프 것목	<u> </u>	اما ت	卖	<u> </u>	四	四四四	ķā.	Desi.	<u> </u>	丸 閃%龜	停戶	兲	荛	草	29	紅	[2명] -나고
	三、熊 三‰本	-	1111	1:0	三	릇	=	霊	吴	D-FI	==	Ξ	三 熊 三 編本	數	兲	芫	=	美	=	
	-、全 00%國		1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	一、全 00%國	<u> </u>	1,000	1,000	1,000	000,	1,000	1,000
第十	≡ 東 ■ 「東		<u>ー</u> グラ ガム	퓿	望	计计	世	云	츳	츳	二 次 四	六	臺‰東 臺‰京	j	茭	춫	岩盆	근	i C	듎
第十四卷	── ──%阪		票	型	完	<u>;</u>	通0	荛		美	兲	美	三%版	五	≒	<u> </u>		1 1 2	菜	
(第五號	札 四%帳	一萬五	元	元	⊒	=	≞	橐	元	壳	芫	兲	札 兲‰幌	千圓	=	亖	三四四	壹	==	츳
死	三% <u>產</u>	三型	岩	뱦	苹	全	仌	습	칼	盐	九 四	캗	仙 二%臺	万	华	함	츳	窄	穴	盍
IJ	三%室	奎二萬	<u> </u>	三三	四世	=	一 粒	긒	三	툿,	,≡	 	名 三%屋	萬	<u> </u>	蓋	荚	몃	冥	1 4 0
八三五	合%島	圓所得	瓷	六四	#	581 29	六 九	\	설	莹	<u>:</u> :	七九	廣 公%島	順	苎	七四	양	브	芜	会
	丸 智%龜	学數		10	픙	売	巴	쬣		四	23	<u></u>	丸 異%龜	得戶	茺	兲	蠹	· 图0	四六	鬥
	三 三‰本		畫	Ę		₹	灵	計	=	<u>=</u>	=	Ξ	二 熊 三‰本	數	≣	Ξ	三		二元	1:50
	一、全 (00%)國	ļ	1,000	7000	1,000	1,000	1,000	1,000	0000] ′ 000	1,000	0000	- 全 00 %國·		1,000	1,000	1,000	·]′000	1,000	1,000

冏	间	同	同	同	冏	大正	同	同	同	朗		同	同	同	同	同	饲	大	同	同	同	`
八	七	六	五	四	弖	<u>т</u>	四上	型	罕至	明治四十二年		八	- E	六	Æ	四	Ξ	正二	型宝车	四四年	罕至	
生	华	争	华	牟	牟	车	四宝车	四二四年	華_	年	_	纟		车	牟	华	年_	年_	车	星	车	論
洋	浡	춙	桃	六	云	춫	눚	臺		壹%京 壹%京		記	혖	충	穀	蓋	홋	츶	충	温泉	Ē%	叢
10E			툸		二公益	亞	亖	프	壳	壹‰阪		帥	尧	즕	즟	蒄	曼		픗	=======================================	≣‰	我が
	=				声			≅.		札 吾%幌	萬圓	ə	赱	퍒	臺	亚 拓.	ᄜ	츳	弄	प्रच	聖%	國民所得の
汆	岩儿	Oct	슾	· ☆	tr	欠	% 0	좃	兰	仙 完%臺	万 至	会	华	全	苎	氼	윤	1	Ξ	<u> </u>	三%	得の地
=======================================										1-14	当萬	豐	薑	₹	jilo	薑	Ξ	=	<u> </u>	三	壹%	方 別 研
蓝	氕	氪	杏	챨	节	金	101	ち	介	廣 □‰島	圓所得	ग ्र	が	恶	夳	芺	合	企	岦	슬	△%	究二
芄	臺	≌	픗	মৈন ক্ৰে	巨拉	至	盖	丢	玉七	丸 罕%龜	得戶版	壹	풆	프	章	寰	吾	四九	冥	芫	壳%	完
101	仌	九四	못	另	==	10옷	<u>e</u>	些	冷	熊 合%本	数 	=	둦	M11	픗	<u>=</u>	≡	ΞŒ	픗	픗	量%	
1,000	1,000	000,	1,000	000,1	1 ′0 00	1,000	1,000	1,000	000	一、全 00%國		000	000	000	1,000	1,000	1,000	1,000	000	1,000] <u>'000</u> %	
売	츳	型 四 0	盖蓝	킃	童	<u>10</u>	完	起	춨	壹 東			141	굺	÷0	类	葁			芸	壹‰	第十
三	売	誓	=======================================	론 0	100 100	至1:	ij Oli	줖	萘	三 大 三%阪		춯	<u> </u>	호	<u> </u>	邑	臺	菫	풏	출	臺%	卷
	量	<u>=</u>			· 쯧						-7f.	盖	76	鬥	臺	六	皇	25	冥	즛	₽‰	第五號
益	売	홋	12	惠	亚四	=	至	¥		仙 岩%臺		쏬	七 四	型			10 1	熏	101	즛	尘%	<u>入</u>
<u>Ş</u>	ۓ	<u></u>	=	^	- - - - -	무	Ξ	壽	Ξ	名 岩 岩 屋	五萬	110	二 元	100	홋	Ξ	莹	110	못	ナし [22]	Ξ‰	<u> </u>
竞	뿣	쿳	<u> =</u>	六	令	- 년 2년	垂	穴	臣	患 亡%岛	圓所但	芫	秃	哭	<u></u>	ņ,	宝	全	ź	카니 [21년	€‰	슬
×	蠹	=	. AE	· 즐	当	#: ##:	. M	츳		丸 究%龜				≓	∄	#	哥	29 SE	[22]	7 <u>9</u>	₩	ļ.
仌	之	· 슬	: ±	2	<u>.</u> 2	六	<u> </u>	**	仌	。 全%本	數	 Z2	抗	- PE	プレ 314	100	40			4	=%	i
] *000	1,000	1,000	1,000	000	1,000	000	1,000	000,	000,1	一 全 30%域		000	1,000	000,1	1,000	1,000	000,1	1,000	1,000	000	- 60%	i

						_					
间	同	闹	词	同	同	大正	间	ij	同	明 治	
八	-t:	六	五	74	Ξ	=	四十五	四十四	Έ	捍	
<u></u>	华	华	年	车	华	华	年		军	军	
極回	증	三元0	新 國0	011	#1000	140	130	豐	0 ;⊠	四 · 東 四 % 5	₹ .
机加	킂	圆圆	양	충	MO0	굯		景	薑	ラップ き%®	ž X
콩	÷	惠	면 인	10	10	0	0	0	0	材 ○ %的	画
= 0	10	^	1 0	10	₽0	暫	芬 0	50	=	(1) (表) (表)	歪]
110	110	<u></u>	100	04	- - - - - - - - -	三年0	1至0	150	10.	マックス マング度	一件
01	콩	10	ij	Ġ	· 合	逝0	<u>N</u>	1 0	O.	意 18% さ	斯斯
10	ㅎ	110	킁	10	0]0	10	0	0	5 0%∰	
04	양	70	<u>M</u>	力0	100	力0	충	20	0 đ	が さ%本	数
1,000	1,000	1,000	1,000	000, 1	17000	1,000	1,000	[,000	1,030	一 至 00% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100%	
六〇	記	#60	图图0	臺巴	誓	₫ 10	₽00	츳	吾	喜%病	()
10	堂	018	픗	150	10	1‡0	1/00	1幅0	11:0	三/版	
EAT	i;	.E.C	0	04	0¢	습	100	110	==	札 お % 帳	
(29)	10	10	0	0	0	0	0	0	0		圓
110	100	冒	容	100	Ost.	[병	100	킁	喜	名 言%情	以上 55
픙	픙	四〇	咨	0.4	0¢	140	100	3]]0	三 / 高 / / 息	
^	10	0	0	0	ú	0	0	0	0	丸 企 120%。	数数
1 0	杏	五	夻	0	0	0	0	0	0	雅 小洲	

1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1'000

者の六倍半に上つてゐる。 を占めてゐるのは東京であつて二割四分、 大阪、名古屋、熊本、廣島、 階段に屬する戸敷が全國に對して占むるそれぞれの割合には可なりの變動があるからである。 先づ所得戸敷合計に就て見る。明治四十二年より大正八年に至る十一年間、大體に於て東京、◆◆◆◆◆ 第五表を材料として種々の考察を試みる事が出來る。蓋し、各地方の所得戶敷合計及び各所得 戦前大正四年に於ける最高最低の上下の幅五倍半に比し、 仙臺 札幌、丸龜と云ヶ順序になつてゐる。大正八年に最高の割合 之を最低の四分足らずの丸穏と比較すると、 多少増加し 前者は後

我が國民所得の地方別研究(二十完)

第一四卷 (第五號 スミ 八三七

てゐる。

%を東京が占め、最低三五%の丸龜の六倍半に當る。大正四年には、東京は札幌の六倍霧であつ 名古屋、熊本、廣島、仙臺、札幌、丸龜と變つた事である。人正八年に於て見るに、最高二二七 東京と大阪とが代位し、更に戦争後大正八年に於ては丸龜と札幌とが入れ代り、結局東京、大阪 十二年に大阪、東京、名古屋、熊本、赝島、仙臺、丸龜、札幌の順序なりしものが、大正四年に 五百圓乃至千圓の階段も、所得戶數合計と同じ樣な傾向を有してゐる。只注意すべきは明治四・・・・・・・

本、 つてゐる。 千圓乃至二千圓に就ては、 **廣島、** 而して東京は札幌の七倍である。 仙臺、 **丸龜、** 札幌の順であつた。其後大正八年には仙臺が第五位、 明治四十二年及び大正四年の両年度共に、東京、 大正四年の七倍半强に比すると、上下の幅が少し狭 **廣島が第六位に變** 大阪、 名古屋、 熊

まつてゐる。

12

てゐる。大正四年に於ても大正八年に於ても東京は札幌の八倍半以上である。 熊本、廣島、仙臺、丸龜、札幌の順序なりしものが、大正八年に至り仙臺で廣島とが位置を代へ 二千圓乃至三千圓の所得戸敷にわりては、明治四十二年及び大正四年共に東京、大阪、名古屋●◆●◆●◆●◆

三千圓以上五千圓以下の階段にては、明治四十二年に東京、大阪、名古屋、熊本、•・・・・・

廣島、

は東京 は札幌 札幌なりしものが、 の敷字の約八倍半であつたが、大正八年に至り約九倍に増加してゐる。 大正四年、大正八年には廣島と仙臺とが入れ代つてゐる。 大正四年に

東京、 以下なりしものが大正八年には九倍以上となつてゐる。 次に五千圓乃至一萬圓の所得戶敷を見るに、明治四十二年、 大阪、 名古屋、 熊本、 仙臺、 **廣島、 丸龜**、 札幌の順序である。 大正四年、 上下の幅が大正四年に九倍 大正七年の何れにても

京 正四年には東京! 年には九倍半なりし幅が大正八年には九倍弱となってゐる。 著しさものがある。 倍張なりし上下の間隔は大正八年には九倍强に増してゐる。一萬五千圓乃至二萬圓にては變化. べ が大正四年には東京、 從來第一位の東京が第二位に下がり、第二位なりし大阪が第一位を占めてゐる。 とが位置を代へてゐる。 更に一萬圓乃至一萬五千圓の所得階段を見る。 東京、 明治四十二年には東京、 熊本、 大阪、 名古屋、 明治四十二年の東京、大阪、名古屋、熊本、仙臺、廣島、 大阪、 名古屋、 大正四年に東京が札幌の七倍半なり 仙臺、 仙臺、名古屋、熊本、廣島、 大阪、 熊本、 廣島、丸龜、札幌と變つた事を擧げねばならぬ。 而して大正 名古屋、 仙臺、 廣島、 **廣島、** 明治四十二年、 **丸龜、** 仙臺、 丸龜、札幌を變じ、 熊本、 更に二萬圓乃至三萬圓所得戶數を 札幌となり、 しものが、 大正四年と大正八年との間に、 札幌、 大正八 大正八年には大阪が札 丸龜なり **丸龜、** 更に大正八年には 八年には 叉大正四年に七 L 札幌の 大阪と東 順序 大

叢 我が國民所得の地方別研究(二)・完)

【卷 (第五號 八五) 八三九

幌の十一倍以上に増加してゐる。

仙臺 東京、 熊本、 札幌、 ある。 には大阪と東京とが入れ代つてゐる。大正四年の上下の幅二十三倍に對し大正八年は二十五倍で し大正八年は十八倍張である。更に五萬圓以上十萬圓以下の所得戶敷を見る。四十二年は東京、 大阪、名古屋、熊本、赝島、 三萬圓乃至五萬圓の所得戶數は明治四十二年に大阪、))) 名古屋、 大正四年には東京、 大正四年には東京、 最後に十萬園以上の所得戸敷に於ては、 丸 龜、 熊本、 仙蠹 仙臺、 大阪、 名古屋、 札幌の順序である。 廣島、 仙臺の順序なりしが、大正四年には札幌、丸龜が加はり、 名古屋、 札幌、 大阪、 熊本、 **廣島、 丸龜の順序である。大正四年の高低の幅二十一倍に比** 明治四十二年に名古屋、東京、 大正八年の最大の割合は大阪の四二%にして、 **廣島、** 札幌さなり、 東京、 **丸龜、** 仙臺、 名古屋、 大正八年には大阪、 札幌、 熊本、 大正八年には大阪 廣島、 大阪、 東京、 **儿龜**、 大正八年 名古屋 札幌 仙臺

の丸龜の八%に比すれば、實に五十三倍である。

らである。更に、最高の割合を占むる地方と最低の割合の地方との上下の幅を考ふるに、 以前には變化少く、 して占むる割合が、職前に於ては殆んご一定せるに拘らず、戰爭を中心として非常に動揺 Ĺ 我が 國民所得の分配狀態を各地方に就き達觀的に觀察した。大體から云つて、 世界大戰以後は變化が多くなつた樣である。これ、各地方の數字の全國に 世界戰爭 興味の したか

的色彩が小所得階段に少く大所得階段に影響著しき事を證明するものである。 深きものがある。上下の幅が戰前よりも寧ろ戰後に大となりし事は、地方的色彩が分配狀態の上 に濃厚となつた事を示すのである。又所得階段の金額を増すに伴ひ幅が増大してゐる事は、

箇 別 的 觀 察

三

する戸敷が占むる割合を算定すると、次の表を得る事が出來る。 察であつた。更に進んで、各地方につき箇別的研究を施し、以て各所得階段の内容を明にせねば ならぬ。東京、大阪、札幌、仙臺、名古屋、廣島、丸龜、熊本の八地方に就き、各所得階段に屬 前項は、各所得階段を主とし各地方を從として我が國民所得の分配狀態を衝究したる全般的觀

第 表

	四	Ξ	=	四五	四四四	四三	四		
	华	- 年	车	车	年	车	车		
論	夸	歪	空	会	公	夸	套%		$\overline{)}$
叢	臺	美	킃		흫		≣%		
我が	夳	夳	空	空	夳	空	益%		
國民	픗	尧	壳	EI0	10	풄	壳%		
所得の	70	 7u	ナ	굸	$\overline{}$	$\overline{}$	⊼‰		東
の地方	三六	~	三	ュ	三 70	77. 34.	€%	級一	}
別研究	<u>.</u>	Ŧ		=	į	=	 /%	于一 関政 残五	京
Ξ	<u>.</u>	<u>-</u>	<u>.</u> 0	C.	$\mathbf{\hat{z}}$	$\hat{\mathbf{x}}$	£%	級二級國	
完	Æ	•0	÷	÷	0.	·	£‰		
	0 <u>•</u> :	0•1	0 <u>•</u> ;	<u>•</u>	[[•0	0•1	≟‰	級五 高 園	
*	1-000	1.000]•000	1.000	1.000	1.000	- 8%	至五 十百 周 月 月 月 月 月 月	
e.E.	交票	空至	盆	交兒	空	至	桑‰	 数五 面	_
第十四	薑	芸	芸	흣		量	≟‰	干國級	
卷	毛	年	吾	兲	兲	兲		経二	
第五號	美	兲	픛	킅	츷	美	量%	聚三 肾 順	
	六	1	二	$\overline{}$	₹,	ᆽ	Ξ‰	至	大
八七)	===	₹	=-	<u>~~</u>	<u>≥r</u>	三. 三.	₹%		.
八四	<u> </u>	<u>-</u>	÷		-2	<u></u>	<u>-</u> %	P一 副改五	阪
	<u>.</u>	<u>.</u>	ċ	<u>:</u>	•	<u>.</u>		*二 (英 (国	
	0.≢	0 #	<u>.</u>	0	? *	₽.	-√‰	英三萬	
	0•	0•	0	0•1	<u>•</u>	<u>•</u>	≟‰	聚五 画	
	000	1.000	1.000	000-1	1.000	1•000	- 0 %	活動	

四五	四四年	四	四三		八	七	六	五	四	三	=	四	四四四	四	四			八	Ł	六	五	
车	车	车	车		筝	牟	华	华	华	夆	车	车	车	手	年			牟	车	车	牟	•
一次へ	六九九	104	20% 冒)	104	七四年	1	14 H	014	六九五	70¢	六九四	六九四	仌	空 %			Z OS	六 至 四	空	臺‰	論
10 %	10 <u>%</u>	글	= % E		101/	臣	型	凸凸	一 九 四	칬	一 九 五	101	元九	101	<u>:</u> %			灵	=======================================	崇	蔶‰	叢
5	門	鬥	写% 造		<u>7</u> 2	10	옆	四四	55 59	挳		田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	盖	晝	፷ %			类	ж. Эт	춫	≑‰	45
뀰	12	1	級 天‰ 園 ***********************************		六	Ξ	六	芄	츳	<u>=</u>	蒄	茺	壹	晝	量%			725 725	킀	<u></u>	秃%	國民
Ξ	=	=	────────────────────────────────────	名	<u> ∓</u>	=	<u></u>	☱	<u> 251</u>	<u> </u>	ス	핃	7	吴	% تا:		札	塑	≡	亖	5%	(所 得)
<u>-</u>	<u></u>	÷	三%属		三四	<u>.</u>	兲	≟	=		兲		亭 六	0	<u>=</u> ••%		 	支	产	∓. 0	≖ ≟‰	地方
<u>;</u>	0 . %	4.0	の		# <u></u>	<u>.</u>	. — Ž	<u>:</u>	<u>•</u> 0	<u>.</u>	<u>-</u>	Ŧ.	<u>:</u>	<u>-</u>	<u>.</u> %	千八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八	幌	<u>:</u>	Ē	₹	± %0	₩
•	•	0.H			О 1	<u>:</u>		Ž.) *-	it • 0	æ			<u>-</u> %			-	-	<u>.</u>	‰	•
	0•H	<u>=</u>			¥	÷	0	0•≅	0.1					9.				<u>•</u>	<u>-</u>	$\dot{\cdot}$	₹%	
. ⊡	•	<u>.</u>	- % ■	1		••	•	0•=	₩0•0	0•0%	0	0	0	0	%د			0.×	÷	<u>ب</u>	≟‰	•
1•000	1.000	•000	一 至至 十百 次 第四 次 第四 次	}	1.000	1-000	1-000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	ė	重五 十百 ○関フラ		0000	1.000	100	- 00%	
즟	左 唇	六 刊 四	30L-75]	壳	谷	75	奈	$\stackrel{\sim}{\leq}$		겶	交流	空	걈	交 四》	級五百	Ì	五た	萘	흫	喜%	±4.
三		110	Ŧ-		<u></u>	1 0:1	芸	=	110	10	<u>=</u>	=======================================	=	=				Ē	売	듳	畫‰	第 十 四
雪	₹	357	級二 委 ‰		至	# .	墨	五	=	<u>=</u>	25 火	五四	五	蓋		級主		泛	夳	夳	兲‰	卷
=	=	Ī		i.	六	臺	₹	石	渎	至	芒	풒	풒	풒	章%			四四	豎	쯸	兲%	(第 五 號
Ē	=	=	被五 三 % 厘	廣	≡	i	=	<u>i</u>	ㅎ	元	74	ㅎ	元	元		級五 千 00 圏		类	₹	<u>=</u>	<u></u> ‰	
-	<u> </u>	二 九	· 三 % 3	<u> </u>	E .	O	≖	æ		<u>年</u>	=	=	=	₹ ¥		級二 級 III	 }	六 • •	六四	±	≂र %। जि	入入
·	<u>:</u>	Ξ			Ξ	<u>:</u>	<u></u>	<u></u>	<u> </u>	$\ddot{\underline{\cdot}}$	₩ •	- -	 	÷		于一 間离 00級五	臺	-	•	<u>=</u>	<u>-</u> ‰	八四
٠ جر	0	-			_	<u>-</u>		<u>:</u>	<u>:</u>	ċ	?	· *	<u>.</u>	O U		級二		=	<u> </u>	1 •0	<u>-</u> %	
<u>-</u>	0				<u>.</u>	÷	0	<u>:</u>	0•1	0	0	<u>:</u>	٠ 9	•	Ξ,	級三		- *	-	≟	₹%	, i
\$0•0	0.01	: -			○ -	2.0	0.00	Ç	<u>-</u> ?	o•.	<u>•</u>	•			0•0; 9;	級五萬		· •	0.		≟%	í.
, 000			1000/100	ī Y '/	1.000							0000			000	歪流 十宮 英側 の個フラ	}	- 000	000	,000	- 9%	í

•

<u>٠</u> O.元

. . ÷

1-000 1.000

七六五四三 年 年 年

年 年

罴 뗏

000 -000

夳 奆

000

売

<u>-</u> -

0.

₫•0 <u>٠</u>

0•<u>è</u>

<u>-</u> **P**

1-000 0000

⋮

<u>:</u>

O. 兄

:

<u></u> 0 <u>÷</u>

车

岩兒 穾

元

⋮ <u>.</u>

0. 0 • • • <u>•</u> <u>-</u>

0.1 <u>•</u> • • 0. <u>•</u>

充 乏

九

云 Ξ 三

<u>==</u> <u>:</u> 三九 = = **₹**

<u>:</u> <u>-</u>

> ı.0 را با

_ _

0.00 E0-0

1.000

<u>•</u>

푱 豎 푱 땦

7

C.* ٠ بر 了 九 흪 £ Ç €

]• 000 1.000 -000 公 7.4

プセナム ない ¥0% 슖 000

읊 5 글

픙

盂 Ξ \equiv =

= == =<u>*</u>

> ç 9

프 ÷ 0,5 ر ا

八	七	六	五	四	Ξ.	=	四	四四四	24	四		
牟	车	牟	华	车	车	华	五年	车	车	车		
六元	至0	<u>六</u> 五七	XXX	空五	沼	六 四 九	至三	至へ	至)
륫	≣	莞	三	110				흦	薑	烹%		
구성 프로,	五七	97 E.	五四	班.	兲	兲	五	兲	兲	要%	級 デ 6 例]
풋	<u>10</u>	盖	=	Ħ	<u>=</u>	喜	壹	≝	=	· 吉%		
亖	≘	<u>~</u>	ᆽ	- N	ᆽ	팓	<u>~</u>	=	Ħ	天%	級五	丸
25	<u>~</u>	E.O	= =	i,	<u>.</u>	≈	i.	<u>=</u>	∓	₹%	級一	}
氵	<u>:</u>	<u>.</u>	<u>:</u>	Ē	=	<u>.</u>	<u>=</u>	<u>:</u>	<u>.</u>	<u>-</u> %	一 間 で で 没 近	 貔
·0	0 %	₹	÷	0.1	٠ <u>٠</u>	<u>.</u>	<u>.</u> 0	<u>.</u>	<u>.</u> 0	₹%	級芸	
™	0•;	€	≟	⊕. •	· •	_ *	0	<u>:</u>	0 >1	≟%		
<u>•</u>	0• ≟	<u>•</u>	•	.0.0M	0.0M	0.00	0•오	0	0	۰%	級五八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百八百	
1-000	j•000	1-000	1-000	1•000			1.000	1.000	1.000	- 6%	武五 十百 八萬間 「関リン	
金宝	突	交	空室	충		츳	完完	完完	<u></u> 충	4%	38.77	—)
1110	122	츶	츳	三六	=	<u>=</u>	===	Ξ,	<u>=</u>	<u>≓</u> %	-T-	
空	旯	垩	Ä	#10	四九	吳	三	垩	晝	三%	級二	
蓋四	=	霊	≘	三	ぎ	三	三	三	≕	Ξ%	級三	
ス	βŢ	<u> </u>	英	垂	=	<u>=</u>	=	 :55.	352	宝%	級工	熊
₽	মে মূল	REI	三. 四	≅.	≡ .	三 选	三 三	== ==	<u>=</u>	= ≟ %	級一	
<u>-</u>	•	<u></u>	<u>.</u>	- 0	$\bar{\underline{\cdot}}$	<u>-</u>	0.5	?	<u>-</u> .	<u>-</u> %	于一 個為 0汲五	本
$\bar{\underline{\cdot}}$	0.4	Ε0	?	0-1	0.	¢•0	0-1	○ •□	0	≟%	終二 英 M	´ ' `
0 ±	0.%	₩ •0	0•=	Q•1	0.5	0•1	0-	0•1	0•:	≘ %		Ì
0•1	<u>•</u>	0:1	Ū•0¥	0.	<u>•</u>	0	₫0•0	0.0¥	¢0•0	٠ %	級式 <u> 國</u>	
1.000	1.000	1.000		1•000	1.000	1.000			1.000	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -		

五百圓乃至千圓の階段にては、 第六表の敷字の中、大正八年に屬するものを擇び出すと、次の如き特色を有してゐる。 札幌、廣島、名古屋、熊本、 仙臺、 **丸龜、** 東京、大阪の順序で

第十四卷

(第五號

八九)

八四三

ある。 を置いてゐる事だ各地方に共通の現象であるが、或者は五百圓に近~或者は五百圓より遠く離れ つてゐる。 之に反し千圓乃至二千圓級では大阪、 両者は恰も正反對の方向に走つてゐるのである。五百圓乃至二千圓の所得階段に重心 東京、 **丸龜、** 仙臺、 名古屋、熊本、 **廣島、** 札幌とな

て其中必點を有してゐる。これ此差異を生ぜし所以である。

本 三千圓乃至五千圓級も亦同様である。五千圓乃至一萬圓級にては、・・・・・・・ **廣島、** |千圓乃至三千圓級にては東京、大阪、丸龜、 名古屋、 札幌となつてゐる。 此等の所得階段に於ては、 仙臺、熊本、 **廣島、** 各地方は大體同じ狀態に在 大阪、 名古屋、札幌の順序をとり、 東京、 **丸龜、** 仙臺、

と云ふ事が出來る。

萬五千圓乃至二萬圓は大阪、 次に一萬圓乃至一萬五千圓の所得戶數は大阪、 東京、 仙臺、 九龜、 東京、 熊本、 仙臺、 廣島、 **丸龜、** 札幌、名古屋、二萬圓乃至三萬 熊本、 名古屋、札幌、

廣島

圓は大阪、東京、仙臺、熊本、 **丸龜、** 廣島、 札幌、 名古屋の順である。

至十萬圓にては大阪、 三萬圓以上五萬圓以下にては大阪、 東京、札幌、名古屋、 東京、 熊本、 仙臺、 仙臺、 札幌、 丸龜、 熊本、名古屋、丸龜、 **廣島となつてゐる。** 廣島、 五萬圓乃

は東京、 以上の敷字に現はれたる最も顯著なる特色は、 大阪が最終に位し、其他の所得階段にては東京、 五百圓乃至千圓階段が全體に占むる割合に於て 大阪が第一位又は第二位を占めてゐる

してゐる。故に東京、 決して不自然とは云ひ得ないのである。更に大阪と東京との両者を比較するに、所得金額が大と 事である。此事實は、東京と大阪との二地方が特に他地方と異なる所の分配狀態を有する事を示 大阪の型と其他の地方の型とを、我が國民所得の分配狀態に就て分つも、

なるに從ひ大阪が東京を凌駕してゐる。

看過し難き事實である。

坂を調査する目的よりして、Pareto 線の計算を各地方毎に試みたのである。第七表がこれである。 分配狀態の研究を推し進めて行くと、結局貧富の懸隔の坂の問題に歸着する。余は貧富の懸隔の

第 表

一卷(第五號 力	卷	十四卷	舒 .	- 2) 2) 3) 4)	光(二·完)	の地方別研究	我が國民所得の地方別研究(二・完)	叢	論	ı
1.7110112		一・ 人 ☆ 至人 つ	一		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	一一四六九三五	一●五三二七九	年	八	回
1 - 22,005	1. 中国国际	一人言意	1• 奈公	一、九九二、	一类大粒	1・四つパロヤ	[-#O!>	牟	t	间
一是表	一、元三	一·七九五一个	1,完全0人以	一九二紫	一、秦妇九三二	4.则4图• [・ 10 10 10 10 10 10 10 10	牟	六	同
•裴 崇	一全元	·	一十九二次七四	一九四三三	1-人0至至三	1-次光1四,	· 元1 to	华	五	Ħ
1]-004@	1 - 八五四七六	1-2500重]•丸二0人四	1.30三六	一类类	一人公司	- 技 人夫	华	四	同
1-22回;	1•人四三三	いたご宝	•人<00元] - 九四0分六	一・ヘゼルヘカ]•九十二十	1、200点	华	Ξ	同
1 1-000# 1	1-人公园	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	一九天三	Ⅰ•无姆八六至	1• 光六五六]	一人艾人人	1.人0九三至	华	IE —	大
- 宝玉芸	• 25天七	一九六四里	1•光图/50	一 丸 八 三	1•35-11-1	一人英克		羊	四十五	同
1 - 九九八三	一、人会三	1-00元	●九光星二四	1;•000[长		1-公三大	し・人芸人皇皇	车	四十四年	同
一九人二套	一。八三元九三	一、杂人完	一九三七	一九八六四	1.人为完四	1-人芸芸	一人交会	手	四十三年	同
1•2六二四个	1•人兄至0	· · · ·	一十八五四五五	一九二天	一九七二四	一、人式九四征	一人三宝	手	沿四十1	၂
態本	丸龜	廣島	名古屋	仙臺	札幌	大阪	東京			

詥

叢

log N = lg A - log xlcgA同 同 텎 同 大 同 同 同 媊 洛四十二年 四十三年 1十五年 一四年 Ŧî. 四 Ξ 车 车 10 • 01[t]11]9(C 10・1三三三三三 10・1次1次2至 10・1至元三元 10·06图111 10·16图21 |O•||短光型| |O•||四||早上|| 九・九九八七一三 | 0 | | 二 | 至五二五 九・奈芸元の芸 た・六元芸会 九•九七九二六五〇 10•1聚另元 10.完蛋次图 10. | | | 九•宝人四0六四 九•00公三五二 れ・兄子芸芸 九。我人先生已 大 阪 え・三 奈男 穴 九・0] 六二元四四 | 0・0九五九五九二 へ・民名の芸 れ・六六七里六六〇 2-21 EDIXI た・芸人の二四七〇 **れ・**野に1140 ル・カニーゼルーニ 一〇・五〇人六九九人 ₹•图[图ninin **交も元 10.01张6图11 九・人莊、元八元 0400ttp-01 ガ・人二人芸会 九•人1三克九人 10•1人15天皇 た・九一芸一芸 九•九一至九天 10•1元五八一年 九・251六一哭 元。201人六 仙 ¥. 10・1 整新の四十 10.04图试前 10.1人杂宝宝三 九十六四九五九五五五 れ・人れへお、買 九•九七01三1五 10•1110八三四三 九-空二天公室 名古屋 カスーだの記 九・九九一三至三人 九十九三一八五一 た芸芸芸 光・完宝二次 九-15人0六0六 九・人む宝三百0 九-九-九八] 质 九九三十二兄 · 하기 보기 [보기 光•图0計1100 光•题到[][][]] た・1六七三二十 10・1七八二〇三年 九十二二二二三元 光。 五四六五八四大 た・四 101/公芸 九•三量六] [[四] 丸 龜 10-1年公园公中四][明明][图14-0] 10•11票5元1大日 10.103(01) 10·1次元次250 10•10元六五四三 10・1四次無過 10-0350至元 ル・無質の割や1点 九・芸芸七旦〇月 熊 本 10・四百四八七 10主然一类 \$FIIQ14100-01 |0・高に||2 10·30sili 10·41-65公全 **一** 空公 と 10. 盎美 10・ 外空室 10・全1四三 で支送回 全 拋

は、 東京にても一•八臺のょが一•五に變化せるが如き、 化が生じてきた。例へば、大阪にて見るに、戦前にては一・八前後のγが戦争の結果一・四となり、 には大した變化が無かつたのである。 に就て各地方の貧富懸隔の坂を調べて見る。 ゝる大變化を見受けなかつた。 茲にも東京、 然るに世界大戦に入るに及び、或地方には可なりの大變 明治四十二年より大正三四年前後迄各地方共に 注目すべき事實である。 大阪の型と他の型とを區別する事が出來る。 而して其他の地方に

<u></u>ነኝ

明瞭に現れる。

國民所得の構成分子の場合を同じく、

大阪と仙臺との両地方を擇び、

對數圖表

試に大正三年と大正七年との両年度の Pareto

線を引くて、

東京、

大阪の型と他の地方の型と

12

る第二圖表を作製したのである。

九四)

入四八

١

は、 つた。 のに、大阪にては大所得階段の戸敷が特に著しく増して來たのである。其結果、 あ の坂が蒈態を維持せる間に大阪の貧富懸隔の坂に變化を來たし、茲に異常の開きを生ずる事とな つてはゐたが、 を仙臺型との間に非常の開きを生じた、何故であらうか。戦争を中心として所得戸敷を増した事 大正三年は戰前の或年である、 |両者に共通したる現象である。而して仙臺にては各所得階段の戸敷が滿遍なく増加してゐる 大正三年に殆んご同様なりし両者のwが、 一方は靜、地方は動、而して變化の著しきは大阪型にして、 大阪、 仙臺共に殆んご同じ坂を現出したのである。然ぁに戰後に及んでは大阪型 大正七年は戦後に屬してゐる。 大正七年には大阪に於て大變化を來た 戦前に於ては、戸敷の桁こそ違 變化の少きは仙臺型である。 仙臺の貧富懸隔 したので

第四 我が國民所得の地方的色彩

地方はそれぞれ地方的特色を有し、 中國地方の廣島、四國地方の丸龜、九州地方の熊本の各稅務監督局管轄區域に就て見るに、 此等諸 關東地方の東京、 以上、 我が國民所得を、其構成分子及び分配狀態の両方面に就き、地方別に研究したのである 近畿地方の大阪、北海道地方の札幌、東北地方の仙臺、 其特色は實に國民所得の上にも現はれてゐるのであ 本州中部地方の名古屋 る。 我が

國民所得がかく地方的特色を有してゐる以上は、我が國民所得を硏究するに當りても、決して地

Wagner は甞て Preussen の國民所得を地方別に研究したのであつた。Sachsen, Berlin, Potsdam

b 研究を及ぼしたが、 其中心選は Rheinland と Ostpreussen との比較に存してゐたのであ

彼は Ø) 分配 Rheinland 両者の間に非常に相違せる事を斷定したのであった。 を商工業地の代表とし、Ostpreussen を以て農業地の典型とし、 更に Moore は 胹 して國民所 Wagner 0) 數

3 説明 を加へてゐる。 Moore の研究によ れば、 Pareto 線のす は

字を用ひ

て此等

闸

地

方

Ó

Pareto

線を算定

両地方に於ける國民所得の分配狀態に

層明

確な

八九二年

・大四〇 三九三 一、九九三 三大三

常に大なる數字を呈してゐる。

の數字を示したのである。

農業地方の

Ostpreussen

のすは

商工業地方の

Rheinland

の夫れ

より

Rheinland Ostpreussen

一八九六年

九〇二年

· 八四二

三五九

天 他は商工業所得の 代表

ح

著を仙臺型と名付け、後者を大阪型と呼ば 而してマ ıı 小である。 第十四卷 恰も (第五號 Wagner ん。大阪型で仙臺型で 九五) の數字 八四九 Moore 0 倂 究と は 其

結果を

į.

してわ

る。

假に前

叢

我が國民所得の地方別研究(二・完)

b

芸る

き法人所得に其特色を示し

したので

あ

న<u>్</u>త

は農業所得が其主要部分を占め

Pareto

線ので

は

の

研究は、

對象を我が國民所得に採

þ

就中

伽臺地方と大阪地方との國民所得の內容を明に

- Wagner: Weitere Statistische Untersuchungen über die Verteilung Volkseinkommens in Preussen auf Grund der neueren Einkommensteuer
- 8) Moore: The Statistical Complement of Pure Economics p. 26-27 (The Quarterly Journal of Economics 1908)

論 叢 我が國民所得の地方別研究(二・完)

質の問題の存する事を忘れてはならぬ。農業中心の仙臺型は、其構成に其分配に變化少く大體に 規模に大小の別がある事は云ふ迄も無い、然し両者の間には、國民所得の量の問題以外に、更に 於て固定の狀態にある。 して變化の甚だしきものがある。 鈍性 (Tenanzität) ありと云ふべきである。之に反し、大阪型は鋭敏に 所謂敏性 (Sensibilität) を備へてゐる。これ實に商工業所得の

特色である。世界戦争を中心として考ふるも、 により大影響を受けた其事自體に至りては、両者に共通の現象である。 一方は徐々に一方は急激に變化した。唯世界戰爭

余の用ひし材料は專ら稅務統計であつて、

特に分配狀態を調べたのは其又一種たる第三種所得

ないのである。 あつて、 税統計によつたのである。 る知識となる事が出來れば、本硏究の目的は達せられたのである。(一一、四、一〇) に關し從來抱かれてゐた漢然たる感想が、此地方別硏究により多少なりとも秩序立てられ明確な 其以上には進んでゐない。從つて原材料及び研究方法共に決して完全なものとは云ひ得 然し我が國の現狀に於ては、先づ此邊の所で滿足せねばなるまい。 而して地方別研究と云つても、稅務監督局の行政區劃を利用した迄で 我が國民所得